

1 次の問い(問1~3)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

問1 a, b は $1 < b \leq a$ を満たす実数である。 $\log_a b + \log_b a = \frac{9}{2}$ のとき

$$\log_a b = \frac{\boxed{1} - \sqrt{\boxed{2} \boxed{3}}}{\boxed{4}}$$

である。

問2 リンゴが25個、ミカンが19個、ナシが16個ある。これらの果物すべてを50人に配ったところ、リンゴだけもらった人は13人、ミカンだけもらった人は9人、ナシだけもらった人は6人であった。リンゴ、ミカン、ナシのすべてをもらった人は最大で $\boxed{5}$ 人であり、1つも果物をもらえなかった人は最大で $\boxed{6}$ $\boxed{7}$ 人である。ただし、同じ人が同じ種類の果物を2個以上もらうことはできないものとする。

問3 4辺うち、3辺の長さが a である台形の面積の最大値は $\frac{\boxed{8} \sqrt{\boxed{9}}}{\boxed{10}} a^{\boxed{11}}$ である。

解説

問1 $\log_a b + \log_b a = \frac{9}{2}$ より

$$\log_a b + \frac{1}{\log_a b} = \frac{9}{2}$$

$$\therefore 2(\log_a b)^2 - 9\log_a b + 1 = 0$$

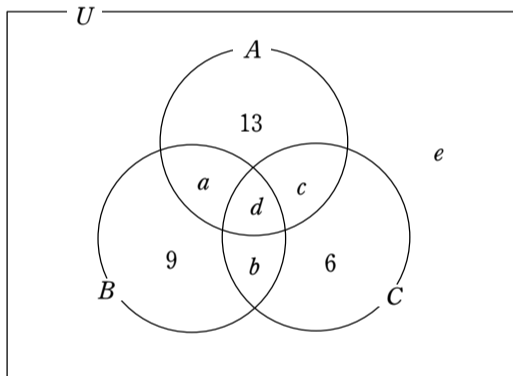
$$\therefore \log_a b = \frac{9 \pm \sqrt{65}}{4}$$

$1 < b \leq a$ より、 $\log_a 1 < \log_a b \leq \log_a a$

よって、 $0 < \log_a b \leq 1$ より

$$\log_a b = \frac{9 - \sqrt{65}}{4}$$

問2 リンゴ、ミカン、ナシを持っているという事象をそれぞれ A, B, C としてベン図を以下のように設定する。



ただし、 $n(A \cap B \cap \bar{C}) = a, n(\bar{A} \cap B \cap C) = b, n(A \cap \bar{B} \cap C) = c, n(A \cap B \cap C) = d, n(\bar{A} \cup \bar{B} \cup \bar{C}) = e$ とする。

リンゴが25個、ミカンが19個、ナシが16個あり、50人に配ったことを考慮すると

$$\begin{cases} 13 + a + c + d = 25 \\ 9 + a + b + d = 19 \\ 6 + b + c + d = 16 \\ 13 + 9 + 6 + a + b + c + d + e = 50 \end{cases}$$

$$\therefore \begin{cases} a + c + d = 12 \dots\dots\dots ① \\ a + b + d = 10 \dots\dots\dots ② \\ b + c + d = 10 \dots\dots\dots ③ \\ a + b + c + d + e = 22 \dots\dots\dots ④ \end{cases}$$

①-②より

$$c - b = 2$$

$$\therefore b = c - 2 \dots\dots ⑤$$

ただし、 $b \geq 0$ より、 $c \geq 2 \dots\dots ⑥$

②-③より

$$a - c = 0$$

$$\therefore a = c \dots\dots ⑦$$

①、⑦より

$$a + a + d = 12$$

$$\therefore d = 12 - 2a \dots\dots ⑧$$

⑥、⑦より、 $a \geq 2 \dots\dots ⑨$

⑧、⑨より、 $d = 12 - 2a \leq 8$

よって、 $a = 2, b = 0, c = 2$ のとき、 d の最大値は8

また、④、⑤、⑦、⑧より

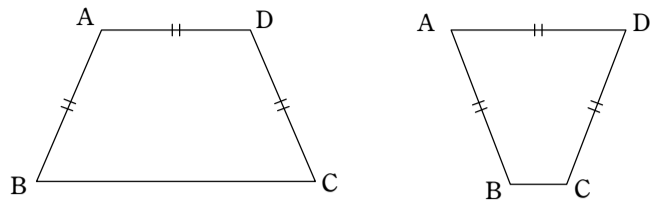
$$a + (a - 2) + a + (12 - 2a) + e = 22$$

$$\therefore e = 12 - a \leq 10 \quad (\because ⑨)$$

よって、 $a = 2, b = 0, c = 2$ のとき、 e の最大値は10

以上より、リンゴ、ミカン、ナシのすべてをもらった人は最大で8人であり、1つも果物をもらえなかった人は最大で10人である。

問3 4辺うち、3辺の長さが a の台形より、以下の2つの等脚台形が考えられる。



面積が最大となるのは $AD > BC$ のときである。

A, D から BC に下ろした垂線の足をそれぞれ H, I とする。………(※)

また、 $\angle ABC = \theta \quad (0 < \theta < \frac{\pi}{2})$ とすると

$$BH = AB \cos \theta = a \cos \theta$$

$$AH = AB \sin \theta = a \sin \theta$$

台形 ABCD の面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \cdot (AD + BC) \cdot AH \\ &= \frac{1}{2} \cdot (AD + BH + HI + IC) \cdot AH \\ &= \frac{1}{2} \cdot 2(AD + BH) \cdot AH \\ &= (a + a \cos \theta) \cdot a \sin \theta \\ &= a^2 (1 + \cos \theta) \cdot \sin \theta \end{aligned}$$

よって、 $S' = a^2 \{(-\sin \theta) \cdot \sin \theta + (1 + \cos \theta) \cdot \cos \theta\}$

$$= a^2 (-\sin^2 \theta + \cos \theta + \cos^2 \theta)$$

$$= a^2 (2\cos^2 \theta + \cos \theta - 1)$$

$$= a^2 (2\cos \theta - 1)(\cos \theta + 1)$$

より、増減表は以下ようになる。

θ	0	$\frac{\pi}{3}$	$\frac{\pi}{2}$
S'	+	0	-
S	↗	$\frac{3\sqrt{3}}{4}a^2$	↘

よって、 $\theta = \frac{\pi}{3}$ で最大値 $\frac{3\sqrt{3}}{4}a^2$ となる。

別解 (※)の続きから

$BH = x$ とおくと ($0 < x < a$)

三平方の定理より

$$AH^2 = a^2 - x^2 (> 0)$$

$$\therefore AH = \sqrt{a^2 - x^2}$$

台形 ABCD の面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \cdot (AD + BC) \cdot AH \\ &= \frac{1}{2} \cdot (AD + BH + HI + IC) \cdot AH \\ &= \frac{1}{2} \cdot 2(AD + BH) \cdot AH \\ &= (a + x) \sqrt{a^2 - x^2} \\ &= \sqrt{(a + x)^2 (a^2 - x^2)} \\ &= \sqrt{(a + x)^3 (a - x)} \end{aligned}$$

$a + x = t$ とおくと、 $0 < x < a$ より、 $a < t < 2a$

$$S = \sqrt{t^3(2a - t)}$$

$f(t) = t^3(2a - t)$ とおくと

$$f(t) = 2at^3 - t^4$$

$$f'(t) = 6at^2 - 4t^3$$

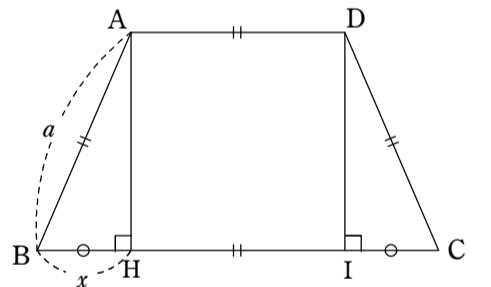
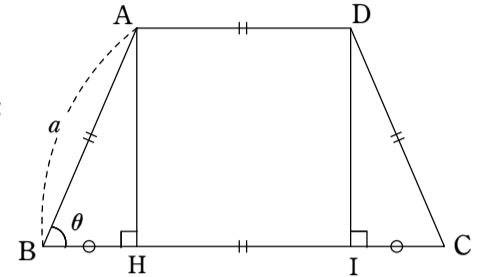
$$= 2t^2(3a - 2t)$$

より、増減表は以下ようになる。

t	a	$\frac{3}{2}a$	$2a$
$f'(t)$	+	0	-
$f(t)$	↗	$\frac{27}{16}a^4$	↘

よって、 $t = \frac{3}{2}a$ で $f(t)$ は最大値 $\frac{27}{16}a^4$ となるので

S は、 $x = \frac{a}{2}$ で最大値 $\frac{3\sqrt{3}}{4}a^2$ となる



2 以下の文章を読み、下の問い(問1~3)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

$a > 0$ として、曲線 $y = ax^2 - \frac{1}{a}$ を考える。

問1 曲線上の点で原点 O に最も近い点のうち、 x 座標が正のものを点 P とすると P の座標は

$$\left(\frac{\sqrt{\boxed{12}}}{\boxed{13}a}, -\frac{\boxed{14}}{\boxed{15}a} \right)$$

である。

問2 $OP=1$ のとき、 $a = \frac{\sqrt{\boxed{16}}}{\boxed{17}}$ である。

問3 a が問2で求めた値のとき、曲線と OP を通る直線で囲まれた図形を y 軸周りに1回転してできる立体の体積 V は

$$V = \frac{\boxed{18} \boxed{19} \sqrt{\boxed{20}}}{\boxed{21} \boxed{22}} \pi$$

である。

解説

問1 曲線 $y = ax^2 - \frac{1}{a}$ 上の点 $(t, at^2 - \frac{1}{a})$ と原点 O との距離を L とすると

$$\begin{aligned} L^2 &= t^2 + \left(at^2 - \frac{1}{a}\right)^2 \\ &= t^2 + a^2t^4 - 2t^2 + \frac{1}{a^2} \\ &= a^2t^4 - t^2 + \frac{1}{a^2} \\ &= a^2\left(t^2 - \frac{1}{2a^2}\right)^2 + \frac{3}{4a^2} \quad \dots\dots\dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

よって、 L が最小となるのは $t^2 = \frac{1}{2a^2}$ のとき

つまり、 $a > 0$ より、 $t = \pm \frac{1}{\sqrt{2}a} = \pm \frac{\sqrt{2}}{2a}$ のときである。

よって、曲線上の点で原点 O に最も近い点のうち、 x 座標が正のものである点 P の座標は、 $\left(\frac{\sqrt{2}}{2a}, -\frac{1}{2a}\right)$

問2 $OP=1$ より、 $L^2=1$

よって、 $\textcircled{1}$ より

$$\frac{3}{4a^2} = 1$$

$$\therefore a^2 = \frac{3}{4}$$

$a > 0$ より、 $a = \frac{\sqrt{3}}{2}$

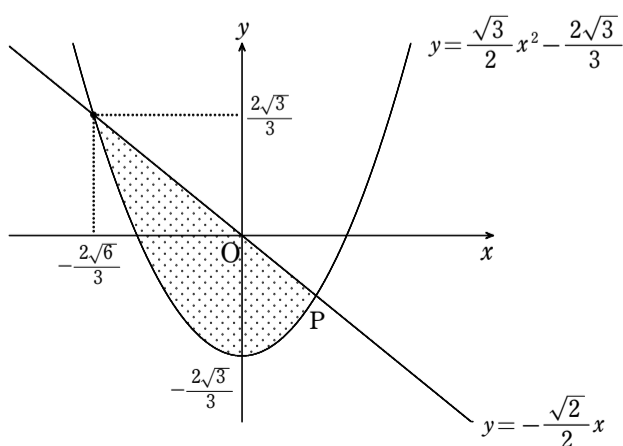
問3 問2より、 $P\left(\frac{\sqrt{6}}{3}, -\frac{\sqrt{3}}{3}\right)$ となるので

曲線： $y = \frac{\sqrt{3}}{2}x^2 - \frac{2\sqrt{3}}{3}$ と直線 OP ： $y = -\frac{\sqrt{3}}{\frac{\sqrt{6}}{3}}x = -\frac{\sqrt{2}}{2}x$ との交点の座標は

$$\begin{aligned} \frac{\sqrt{3}}{2}x^2 - \frac{2\sqrt{3}}{3} &= -\frac{\sqrt{2}}{2}x \\ \therefore 3\sqrt{3}x^2 + 3\sqrt{2}x - 4\sqrt{3} &= 0 \\ \therefore (3x - \sqrt{6})(\sqrt{3}x + 2\sqrt{2}) &= 0 \\ \therefore x = \frac{\sqrt{6}}{3}, -\frac{2\sqrt{6}}{3} \end{aligned}$$

よって、 P 以外の交点の座標は $\left(-\frac{2\sqrt{6}}{3}, \frac{2\sqrt{3}}{3}\right)$ となる。

これより、グラフは以下ようになる。



よって、求める立体の体積を V とすると V は上の図の $x \leq 0$ の打点部分を y 軸周りに1回転してできる立体の体積となるので

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_{-\frac{2\sqrt{6}}{3}}^{\frac{2\sqrt{6}}{3}} x^2 dy - \frac{1}{3} \pi \cdot \left(\frac{2\sqrt{6}}{3}\right)^2 \cdot \frac{2\sqrt{3}}{3} \\ &= \frac{2\pi}{\sqrt{3}} \int_{-\frac{2\sqrt{6}}{3}}^{\frac{2\sqrt{6}}{3}} \left(y + \frac{2\sqrt{3}}{3}\right) dy - \frac{16\sqrt{3}}{27} \pi \\ &= \frac{4\pi}{\sqrt{3}} \int_0^{\frac{2\sqrt{3}}{3}} \frac{2\sqrt{3}}{3} dy - \frac{16\sqrt{3}}{27} \pi \\ &= \frac{4\pi}{\sqrt{3}} \left[\frac{2\sqrt{3}}{3}y\right]_0^{\frac{2\sqrt{3}}{3}} - \frac{16\sqrt{3}}{27} \pi \\ &= \frac{16\sqrt{3}}{9} \pi - \frac{16\sqrt{3}}{27} \pi \\ &= \frac{32\sqrt{3}}{27} \pi \end{aligned}$$

3 以下の文章を読み、下の問い(問1~3)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

1 辺の長さが1である正四面体 ABCD がある。AD の中点を E、AB を $t : (1-t)$ に内分する点を P とする。ただし、 $0 \leq t \leq 1$ であるものとする。

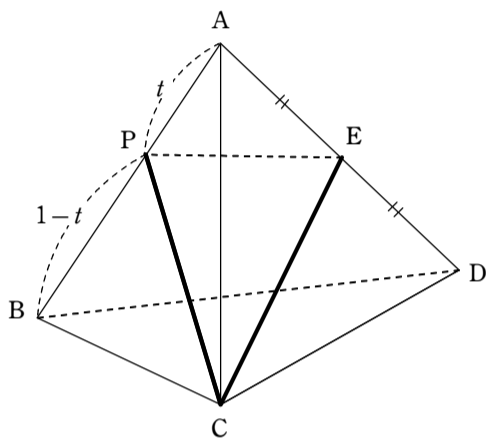
問1 三角形 CEP の面積を $S(t)$ で表すと、 $S(t) = \frac{\sqrt{\frac{23}{24}}}{24}$ である。

問2 任意の t に対し、 $\vec{CP} \cdot \vec{CE} = \frac{25}{26} (\frac{27}{26} - \frac{28}{26} t)$ であり

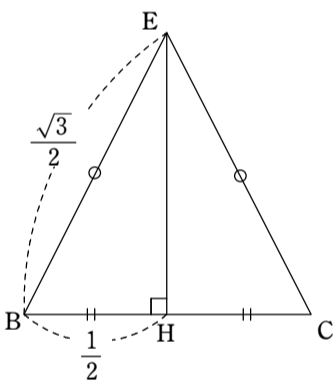
$CP^2 = \frac{29}{29} t^2 - \frac{30}{30} t + \frac{31}{31}$ である。

問3 $S(t)$ は $t = \frac{\frac{32}{33}}{\frac{34}{34}}$ のとき、最小値 $\frac{\sqrt{\frac{35}{37} \frac{36}{38}}}{37}$ をとる。

解説



問1 $t=1$ のとき、 $S(t)$ は $\triangle CEB$ の面積と一致する。
E から BC に下した垂線の足を H とすると



三平方の定理より

$$EH = \sqrt{\left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 - \left(\frac{1}{2}\right)^2} = \frac{\sqrt{2}}{2}$$

よって、 $S(1) = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} = \frac{\sqrt{2}}{4}$

問2 $|\vec{CA}| = |\vec{CB}| = 1$ 、 $\vec{CA} \cdot \vec{CB} = \vec{CA} \cdot \vec{CD} = \vec{CB} \cdot \vec{CD} = \frac{1}{2}$ で

$$\vec{CP} = (1-t)\vec{CA} + t\vec{CB}, \vec{CE} = \frac{1}{2}\vec{CA} + \frac{1}{2}\vec{CD} \text{ より}$$

$$\begin{aligned} \vec{CP} \cdot \vec{CE} &= \left\{ (1-t)\vec{CA} + t\vec{CB} \right\} \cdot \left\{ \frac{1}{2}\vec{CA} + \frac{1}{2}\vec{CD} \right\} \\ &= \frac{1}{2}(1-t)|\vec{CA}|^2 + \frac{1}{2}\vec{CA} \cdot \vec{CD} + \frac{t}{2}\vec{CA} \cdot \vec{CB} + \frac{t}{2}\vec{CB} \cdot \vec{CD} \\ &= \frac{1}{2}(1-t) \cdot 1 + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{t}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{t}{2} \cdot \frac{1}{2} \\ &= \frac{1}{4}(3-t) \end{aligned}$$

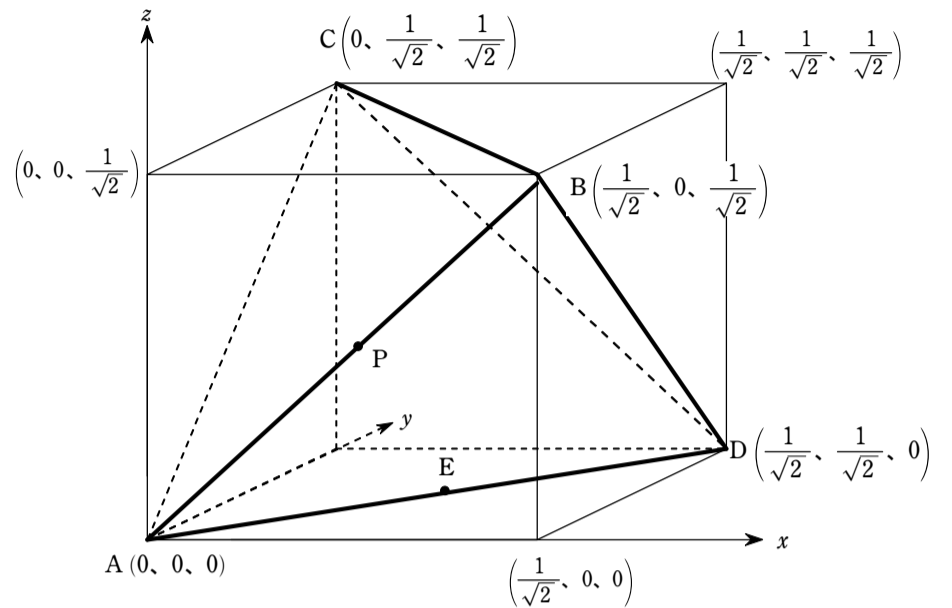
$$\begin{aligned} |\vec{CP}|^2 &= (1-t)^2|\vec{CA}|^2 + 2t(1-t)\vec{CA} \cdot \vec{CB} + t^2|\vec{CB}|^2 \\ &= (1-t^2) \cdot 1 + 2t(1-t) \cdot \frac{1}{2} + t^2 \cdot 1 \\ &= t^2 - t + 1 \end{aligned}$$

別解

1 辺の長さが1の正四面体は、1 辺が $\frac{1}{\sqrt{2}}$ の立方体に内接するので

$$A(0, 0, 0), B\left(\frac{1}{\sqrt{2}}, 0, \frac{1}{\sqrt{2}}\right), C\left(0, \frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{2}}\right), D\left(\frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{2}}, 0\right)$$

とすると、P は $\left(\frac{t}{\sqrt{2}}, 0, \frac{t}{\sqrt{2}}\right)$ 、E は $\left(\frac{1}{2\sqrt{2}}, \frac{1}{2\sqrt{2}}, 0\right)$ となる。



よって

$$\begin{aligned} \vec{CP} \cdot \vec{CE} &= \begin{pmatrix} \frac{t}{\sqrt{2}} \\ -\frac{1}{\sqrt{2}} \\ \frac{t-1}{\sqrt{2}} \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} \frac{1}{2\sqrt{2}} \\ -\frac{1}{2\sqrt{2}} \\ -\frac{1}{\sqrt{2}} \end{pmatrix} \\ &= \frac{t}{4} + \frac{1}{4} - \frac{t-1}{2} \\ &= \frac{1}{4}(3-t) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} CP^2 &= \frac{t^2}{2} + \frac{1}{2} + \frac{(t-1)^2}{2} \\ &= \frac{1}{2}(2t^2 - 2t + 2) \\ &= t^2 - t + 1 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{問3 } S(t) &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{CP}|^2 |\vec{CE}|^2 - (\vec{CP} \cdot \vec{CE})^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{(t^2 - t + 1) \cdot 1 - \left(\frac{3-t}{4}\right)^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{t^2 - t + 1 - \frac{9 - 6t + t^2}{16}} \\ &= \frac{1}{8} \sqrt{11t^2 - 6t + 3} \\ &= \frac{1}{8} \sqrt{11\left(t - \frac{3}{11}\right)^2 + \frac{24}{11}} \end{aligned}$$

$0 \leq t \leq 1$ より、 $t = \frac{3}{11}$ で、 $S(t)$ は最大値 $\frac{\sqrt{66}}{44}$ をとる。

4 以下の文章を読み、下の問い(問1、2)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

1組52枚のトランプを模様(スペード、ハート、クローバー、ダイヤ)ごとに4つの束に分け、それぞれ束から1枚ずつ無作為に引く。そして、スペードの束から引いたカードの数字を a 、ハートの束から引いたカードの数字を b 、クローバーから引いたカードの数字を c 、ダイヤの束から引いたカードの数字を d とする。

ただし、J(ジャック)は11、Q(クイーン)は12、K(キング)は13であるものとする。

問1 $a+b+c=6$ となる確率は

39	40		
41	42	43	44

 である。このとき、

積 abc の最大値は

45

 であり、最小値は

46

 である。

問2 $a+b+c+d=8$ となる確率は

47	48			
49	50	51	52	53

 である。

また、 $a+b+c+d=8$ であるとき、積 $abcd$ が最小となる確率は

54	
55	56

 である。

解説

問1 $1 \leq a \leq b \leq c \leq 13$ とするとき、 $a+b+c=6$ となる (a, b, c) の組合せは $(a, b, c) = (1, 1, 4), (1, 2, 3), (2, 2, 2)$

となる。

a, b, c の大小関係を取り去るときの、 a, b, c への数字の割り当て方は

(i) $(a, b, c) = (1, 1, 4)$ のとき、 $\frac{3!}{2!} = 3$ 通り

(ii) $(a, b, c) = (1, 2, 3)$ のとき、 $3! = 6$ 通り

(iii) $(a, b, c) = (2, 2, 2)$ のとき、1 通り

よって、求める確率は

$$\frac{3+6+1}{(13)^3} = \frac{10}{2197}$$

また、積 abc の最大値は、(iii) のときの 8、最小値は、(i) のときの 4

問2 $1 \leq a \leq b \leq c \leq d \leq 13$ とするとき、 $a+b+c+d=8$ となる (a, b, c, d) の組合せは $(a, b, c, d) = (1, 1, 1, 5), (1, 1, 2, 4), (1, 1, 3, 3), (1, 2, 2, 3), (2, 2, 2, 2)$

となる。

a, b, c, d の大小関係を取り去るときの、 a, b, c, d への数字の割り当て方は

(i) $(a, b, c, d) = (1, 1, 1, 5)$ のとき、 $\frac{4!}{3!} = 4$ 通り

(ii) $(a, b, c, d) = (1, 1, 2, 4)$ のとき、 $\frac{4!}{2!} = 12$ 通り

(iii) $(a, b, c, d) = (1, 1, 3, 3)$ のとき、 $\frac{4!}{2!2!} = 6$ 通り

(iv) $(a, b, c, d) = (1, 2, 2, 3)$ のとき、 $\frac{4!}{2!} = 12$ 通り

(v) $(a, b, c, d) = (2, 2, 2, 2)$ のとき、1 通り

よって、求める確率は

$$\frac{4+12+6+12+1}{(13)^4} = \frac{35}{28561}$$

また、積 $abcd$ が最小となるのは、(i) のときの 5 である。

よって、 $a+b+c+d=8$ であるとき、積 $abcd$ が最小となる条件付き確率は

$$\frac{\frac{4}{(13)^4}}{\frac{35}{(13)^4}} = \frac{4}{35}$$

参考 $x_1 + x_2 + \dots + x_n = m$ (x_1, x_2, \dots, x_n は非負整数、 m は自然数) を満たす (x_1, x_2, \dots, x_n) の組み合わせは

$${}_{m+n-1}C_{n-1} \text{ 通り}$$

である。

別解 上の参考を利用して

問1 $a+b+c=6$ より、 $(a-1)+(b-1)+(c-1)=3$

$a-1=A, b-1=B, c-1=C$ とおくと

$A+B+C=3$ (A, B, C は非負整数) …… ① となるので

① を満たす自然数 A, B, C の組合せは、 ${}_{3+3-1}C_{3-1} = {}_5C_2 = 10$ 通り

A, B, C と a, b, c は一対一対応より

求める確率は、 $\frac{10}{(13)^3} = \frac{10}{2197}$

問2 $a+b+c+d=8$ より、 $(a-1)+(b-1)+(c-1)+(d-1)=4$

$a-1=A, b-1=B, c-1=C, d-1=D$ とおくと

$A+B+C+D=4$ (A, B, C, D は非負整数) …… ② となるので

② を満たす自然数 A, B, C, D の組合せは、 ${}_{4+4-1}C_{4-1} = {}_7C_3 = 35$ 通り

A, B, C, D と a, b, c, d は一対一対応より

$$\begin{aligned} \text{求める確率は、} & \frac{35}{(13)^4} = \frac{35}{28561} \\ & \frac{10}{(13)^3} = \frac{10}{2197} \end{aligned}$$